

第3章

● 前置詞と「の」「で」「に」 ●

Points

日本語を学習している外国人は、しばしば、「て」「に」「を」「は」(助詞)を省略して日本語を話します。第2章(aとthe)の冒頭でも考えたように、この現象は、日本語において助詞がいかに大きな役割を果たしているかを示すものでしょう。

日本語で助詞の果たす役割は、英語では第4章で取り上げる5文型の問題、つまり、単語の並ぶ位置で表現されます。ただ、それだけではなく、本章でお話ししていく前置詞の問題につながる助詞の問題もあります。

日本語を外国語として学ぶ人たちにとって、「の」「で」「に」の習得も大きなテーマになります。逆に、私たち英語学習者の立場から見れば、「の」「で」「に」という日本語にどの前置詞を用いるのかが課題であり、これが**英語学習のひとつの大きな山**になります。

なお、前置詞の後の名詞が省略された場合、その“後の名詞が省略された前置詞”を副詞と分類することもできます。

たとえば、「外は雨」という文の

It is raining outside.

のoutsideを「外は」という副詞と考えてもよいし、outside the house「家の外は」の前置詞outsideの後のthe houseが省略されたと考えてもよいということです。

副詞は最終的に文の意味を決める重要な役割を担っている(☞No.7)という点でも、前置詞は副詞に相通ずるものがあります。